

もの言う牧師のエッセー 第228話

「狩りガール」

環境省によると、狩猟免許所持者は1975年の51万人から2010年には19万人と激減し、そのためシカやイノシシなど野生動物による農作物被害が今や全国で年間200億円を超えるという。中でもイノシシは人を襲うことが多く、さらにクマともなるともっと危ない。いっぽうで、狩猟者の6割以上が60歳以上と高齢化が進んでおり、このままでは被害対策どころか日本の狩猟技術や文化の伝承も潰えてしまう。しかし近年、女性のハンターが2001年の953人だったのが2012年には2037人に倍増し、「狩りガール」と呼ばれ注目されている。

もともとクレ射撃が趣味だった東大阪市の会社員、藤崎由美子さんは、当初は命を奪うことへの恐れとためらいがあったが、初めて大阪府北部で地元猟師と狩りを経験した際、猟師がイノシシを仕留め、余すところなくさばく様子を見た時、「殺生を誰かがやってくれているおかげで肉を食べることができる」と実感。「スーパーに並ぶ食肉も、きちんとおいしくいただくと思う気持ちが増えました」と話す。和歌山県紀の川市の吉田安葵子さんは、実家の果樹園の農作物をイノシシに食い荒らされる食害に悩まされていたが、思い切って猟の世界に飛び込み、その楽しさや肉のおいしさを知り、「猟への見方が変わり、今ではイノシシを捕まえることでお礼を言われることも多い。」という。

しかし彼女らが従来のハンターのイメージとは大きく異なることも確かだ。野生動物は匂いに敏感なため無香料のものを使うなど、狩猟の際も化粧をする人が多く、さらに地味な迷彩服ではなくピンクなど色々な服を着てみたり。その結果、猟が通常チームプレーゆえに「女を山に連れて行くものではない。」と顔をしかめる男性ハンターもいる。「動物を殺すなんて！」と家族にそっぽを向かれることもあるそうで、思わずイエスと宗教家らの問答を思い出した。

**「パリサイ人と律法学者たちは、イエスに尋ねた。『なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人たちの
言い伝えに従って歩まないで、汚れた手でパンを食べるのですか。』イエスは彼らに言われた。
(中略)『あなたがたは、神の戒めを捨てて、人間の言い伝えを堅く守っている。』」**

マルコの福音書7章5-8節、

と。人々の生活をスムーズにする為に世の中には様々なルールやマナーがあるが、時にはそれが一人歩きをして人々を縛ることが少なくなく、宗教や法律はその典型と言ってよい。クリスチャン

で酒を飲む人飲まない人、聖書を読む人読まない人など色々いる。しかし要点は、十字架で我らの罪を負って死んだ後に復活したキリストを信じ、己の未熟さを知り、神を愛し、人を愛することである。つまり“八百万のキリスト教”ではなく“キリストご自身”を信じることだ。ルールを守るとは素晴らしい。しかしなすべき事をするこそが正義なのである。

2016-4-5

